

大学院修了にあたり

大学院修了にあたり

歯科麻酔学分野大学院4年 沢田 詠見

同じ大学院生活でも分野によって特色があると思いますが、今回は歯科麻酔学分野についてご紹介します。

1年目は臨床がメインで、全身麻酔法や静脈内鎮静法の方法、ペインクリニック、全身疾患の知識、麻酔管理などを学びます。覚えることが沢山あり、毎日が一瞬で過ぎ去る程、忙しく感じていました。2年目以降は週に1回臨床、1回出張、他研究日となり、本格的に研究が始まります。当分野の研究テーマは、口腔顔面領域の痛みについてであり、私の研究は、下歯槽神経の神経障害性疼痛モデルマウスを作製後、延髄に人工シナプスオーガナイザーを投与し、一次中継核におけるシナプス形成が末梢神経の感覚の回復にどのような影響を与えるか解明するという研究です。先行研究がなく、試行錯誤しながら、様々な技術を一つひとつ習得していくしか方法がなかったため、とても過酷でした。他分野や他学部の先生方に助けをいただきながら、なんとか形になりそうです。また、中国からの留学生と縁あって同期になり、日本にいながらも外国の文化や言語を学ぶことができました。研究も臨床も、細く長く続けていこうと思いました。

臨床と研究をどちらも経験することができましたが、臨床では、同じ麻酔方法でも患者さんごとに麻酔管理や薬剤や薬剤量が異なり、その都度計

算が必要で、そこが難しいところではありますが、大変面白く、好きなところでした。歯科治療においても、既往歴のある患者さんへの対応や患者さんに何かあった時に、対応するための全身管理学を学ぶことができ、価値のある4年間でした。

楽しいことばかりではなく、つらいことや大変なことの方が多かったですが、この4年間の中で、自分に良い影響を与える素晴らしい方々に出会うことができました。そのおかげで、大学院へ進学してよかったと思います。大学院生活で身についたものは、忍耐強さと冷静さです。人の苦しみや痛みはその人自身にしか分からないので、少しでも患者さんの気持ちに寄り添える医療従事者でいたいと思います。最後になりましたが、4年間で指導をいただきました瀬尾教授はじめ歯科麻酔学分野の先生方、お世話になった先生方にこの場を借りまして、心より御礼申し上げます。



歯科麻酔学分野同期留学生と研究室にて（筆者：左）

大学院修了にあたり

歯周診断・再建学分野 4年 那須優介

こんにちは。歯周診断・再建学分野、大学院4年の那須優介と申します。私は49期生として本学を卒業後、研修医を経て大学院に進学しました。大学院修了にあたり、これまでを振り返ってみたいと思います。

歯周診断・再建学分野では、大学院在学中に「日本歯周病学会認定医」を取得できるような体制が整っており、高橋直紀准教授のご指導のもと、歯周治療の基本から専門性の高い治療に至るまで幅広く経験させていただきました。歯周外科手術も数例執刀したほか、出張先では多部田康一教授と2人で診療を行う機会があり、贅沢にもすぐ隣で直接ご指導いただきました。歯科医師として駆け出しの時期にこのような環境で研鑽を詰むことができ、本当に良かったと思っています。

研究は口腔生化学分野にて、照沼美穂教授よりご指導いただきました。照沼教授は、サッカー一部OB会のご縁もあって快く研究指導を引き受けてくださり、研究について一切無知な私に一からご指導くださいました。初めは大変でしたが、照沼教授をはじめ研究室の先生方、先輩方が親身に教えてくださり、次第に一人で実験ができるようになっていきました。ときに研究には大変な時間と労力が求められますが、例え些細な発見だとしても、この世で誰も知らなかった現象を発見したときの高揚感は、何物にも代えがたいものです。また、得られた研究成果を学会発表するため、愛知、

山梨、兵庫、沖縄、カナダなど色々な所に行かせていただきました。そしてその先々で、歯科の垣根を超え様々なバックグラウンドをもつ先生方と交流し、同世代の研究仲間も多くできました。これも、大学院生活で得られたかけがえのない財産の一つです。

大学院の目的は「博士号」という肩書きではなく、それを取得するための過程にあります。その過程で、臨床スキルだけでなく、物事の本質を見極める思考力、考える習慣が身に着きます。一つ一つの医療行為の背景には膨大な数の研究の蓄積があります。医療の発展につながる新たな発見や研究成果の価値を、正しく理解するための考え方や知識は、実際に研究をしてみることでしか得られません。そしてそれは、質の高い歯科医療の実践に必ずつながると思います。

最後に、大学院修了にあたりご指導を賜りました多くの先生方に厚く御礼申し上げます。大学院での貴重な経験を活かして、これからも精進していきたいと思っています。



留学中の先輩と（右が筆者）

令和5年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名（9月修了者）

博士の専攻
分野の名称

氏名（専攻）

博士論文名

（課程修了 5人）

博士（歯学）	HNIN YU LWIN （口腔生命科学）	Soybean peptide inhibits the biofilm of periodontopathic bacteria via bactericidal activity （大豆ペプチドは殺菌的作用により歯周病原細菌バイオフィーム形成を阻害する）
博士（歯学）	大久保 明 （口腔生命科学）	Chewing well modulates pharyngeal bolus transit during swallowing in healthy participants （よく噛むことは健常者において嚥下中の食塊咽頭通過を変調する）
博士（歯学）	後藤 理恵 （口腔生命科学）	Effect of inhibition of salivary flow on masticatory behaviors in healthy humans （健常者において唾液分泌抑制が咀嚼行動にもたらす影響）
博士（歯学）	SUWANARPA Ketsupha （口腔生命科学）	Can masticatory performance be predicted by using food acceptance questionnaire in elderly patients with removable dentures? （可撤性義歯を装着した高齢患者において、食物摂取質問票を用いて咀嚼能力を予測できるか？）
博士（歯学）	NYEIN NYEIN CHAN （口腔生命科学）	Cholesterol Is a Regulator of CAV1 Localization and Cell Migration in Oral Squamous Cell Carcinoma （コレステロールは口腔扁平上皮癌におけるCAV1の局在と細胞遊走能を制御する）

（早期修了 1人）

博士（歯学）	中嶋 優太 （口腔生命科学）	Atropine facilitates water-evoked swallows via central muscarinic receptors in anesthetized rats （麻酔ラットにおける中枢性ムスカリン受容体を介したアトロピンの水誘発嚥下の促進効果）
--------	-------------------	--

